



中学生の部 優秀賞

「夏休み中のボランティアを通して学んだこと」

中萩中学校 3年 上野 りつ

私は福祉の仕事に興味があったため、夏休み中に精神障がい者の方がいる施設へのボランティアに参加しました。そのボランティアでの疑問などを通して知れたことがいくつかあります。

1つ目は、普段私達が使っている折り紙などの梱包作業という内容があったことです。最初作業をすると聞いたときに私は、福祉にこの折り紙は関係あるのかと疑問に思っていました。そして、作業を進めていく中で職員さんになぜこんなことをするのか聞いてみたところ、その作業をする人は主に施設を利用している方たちで、その人達に給料を渡すための作業だということがわかりました。精神障がい者の方たちが働く場所はないと思っていたけれど、このような作業をすることで、障がいを持った方でも、自分で生きていけるというのを知ることができました。

2つ目は、見た目だけではわからない障がいを持っている方がいたことです。利用者さんの中にはそういう方が多く、普段はあまり接する機会がない方もいて、自分が普段過ごしているときにも周りにいるかもしれないと考えることができ、とてもいい経験になりました。

この2つの気づきの後、私は利用者さんのような障がいを持った方への考え方が変わりました。最初は、障がいを持っていて、人と話したりするのが苦手な方、または一方的に話してしまう方たちだと思っていたけど、利用者さんの中には自分の好きなことについてたくさん話してくれる方や、中学生の私にも話しかけてくれる方、作業中にわからないところがあったら言ってねと優しく接してくれる方がたくさんいました。

この2つの経験から私は自分なりに、精神障がい者の方たちについて調べてみました。その中で特に私が驚いたことがあります。

す。それは、厚生労働省の調査によると、10人に1人が発達障がい
に該当すると言われているということです。なぜ驚いたかとい
うと、クラスに3、4人いるかもしれないということになるからで
す。そう考えると、やはり自分が普段過ごしている中、周りにたく
さんそういう人がいるのではないかと思います。そこから私は、
障がいを持っている人を障がい者というけれど、そんなことない
のではと思いました。障がいを認めてないのは、持っている本人
ではなく、周りの人、その人を生きづらくしているのも、私達周り
の人で、その私達が障がいをもっている人を「障がい者」として見
る、接するのではなく、普段私達が一緒に過ごしている友人や、そ
の他の方たちと同じように接すれば、精神障がい者の方たちも生
きやすくなるのではないかと思います。そんなの無理でしょ、ま
ず言葉を話すこと自体苦手な人もいるのに、と思うかも知れませ
ん。でも、普段友人や周りの人と話すとき私達は何も考えずに話
していますか、そうじゃないと思います。周りの人に伝わりやすい
ように、意識しながら話しているときもあると思います。それと同
じように、精神障がい者の方たちに伝わりやすいように工夫し
て、難しい言葉を使わずに相手のことを思いやって話せばいいと私
は考えました。このように考えたのは、障がいを持った人でも生
きやすくなるというのが一番の理由ですが、他に、全員が生きや
すい社会になるようにと思ったというの也有ります。障がいを持
っているから優しく接そうとか、障がいを持っているからと理由
をつけて行動してはきつと誰もが生きやすい社会にはなりませ
ん。なので、誰にでも優しく、平等に接することが一番の障がい
を持った方でも生きやすくなる社会にする方法だと思います。



高校生の部 優秀賞

「ボランティア活動から感じたこと」

新居浜南高校 3年 曾我部 愛樹

私は、昨年の冬に地域の公民館で行われた餅つき大会にボランティアとして参加した。普段の生活ではなかなか関わる機会が少ないお年寄りの方や、子どもたちと一緒に参加することができ、私にとって貴重な経験になった。

当日の朝は、地域の人と一緒に餅をついた。餅をつくたびに、「はい！」といった掛け声を皆で言うのが楽しくて、自然と緊張も解けて笑顔になった。私は、主にできた餅を丸めたり、丸めた餅の中にあんこを入れるといった簡単な作業を行った。

その中でも私が印象に残っているのは、あるお年寄りの方から、「昔は、たくさん人が集まっていたけれど、最近はその機会が少なくなってるんよ。だからこういう機会があると、私も元気出るの。」と嬉しそうに話してくださいましたことだ。その話を聞いて、ボランティアや地域の行事による人とのつながりの大切さを感じた。また、子どもたちからも感じたことがあった。最初は、不安そうにしていた子が多かったが、大人と一緒に餅をついたりポジティブな声かけをすることで、次第に笑顔になっていく様子を見て、できたときの達成感と、それを支える周りの力の大切さを改めて感じた。

ボランティアとして参加して、最初は「お手伝いをする」という意識が強かった。しかし実際は、地域の方との交流の中で学んだことがあり、「嬉しい」「楽しい」といった気持ちをたくさん感じた。例えば、餅を作っている時に「ありがとう」と言われたり、「おいしかった！」と言いに来てくれた瞬間、心がとても温かい気持ちになった。

この経験を通して、福祉は、普段の生活の中で人と人とのつながりや助け合いの中にあることを学んだ。単なる行事の中にも、お年寄りの方にとっては生きがいに繋がっていることや、地域全体のつながりを深めていることが分かった。今の社会は、高齢化や核家族化が進んでいて、人との関係が少なくなっている。しかし、今回のボランティアのように、様々な人が交流できる場所や行事があったら、孤独さを感じる人も少なくなって地域や社会全体で支え合うきっかけに繋がると思う。

私も将来、このようなつながりを大切にし、支え合える存在でありたいと思う。これからも、この学んだことや感じたことを忘れず、自分にできることを少しずつ実践していきたい。